ファイナンス入門　第1回財務分析レポート

氏名：園山佳典

学籍番号：26002201991

１損益状況

テーブル

自動的に生成された説明

図1　損益状況等

任天堂の損益状況は、近年好調に推移している。2023年3月期の売上高は3兆3130億円、営業利益は1704億円と、いずれも過去最高を記録した。このことから、任天堂安定した経営基盤を築き、成長を続けていることがわかる。任天堂の損益状況は、株主や投資家からの信頼獲得につながる。2023年3月期の株価は、前期比で約30％上昇した。このことから、任天堂の業績に対する株主や投資家の期待の高さがわかる。

当期（2022年4月～2023年3月）のNintendoSwitchビジネスは、『ポケットモンスタースカーレット・バイオレット』が2,210万本、『スプラトゥーン3』が1,067万本とそれぞれ好調な販売を記録した。当期に発売したその他の新作タイトルも、『NintendoSwitchSports』が960万本の販売となるなど、順調に販売を伸ばした。加えて、前期以前に発売したタイトルのうち『マリオカート８デラックス』が845万本（累計販売本数5,379万本）、『星のカービィディスカバリー』が381万本（累計販売本数646万本）の販売を記録した。これらの結果、当期のミリオンセラータイトルはソフトメーカー様のタイトルも含めて35タイトルとなった。ハードウェアに関しては、半導体部品等の供給不足によって夏の終わりごろまで生産が影響を受けたことに加え、主に年末商戦で前期ほどの販売の伸びが見られなかったことから、販売台数は前期比22.1％減の1,797万台となった。ソフトウェアは安定した販売状況が続いたものの、ハードウェアの販売減の影響を一部受け、販売本数は前期比9.0％減の2億1,396万本となった。ゲーム専用機におけるデジタルビジネスでは、円安による為替の影響に加え、NintendoSwitchのパッケージ併売ダウンロードソフトが好調に推移したことやNintendoSwitchOnlineによる売上が増加したことなどにより、デジタル売上高は4,052億円（前期比12.7％増）となった。モバイル・IP関連収入等については、ロイヤリティ収入は増加したが、スマートデバイス向け課金収入が減少したことで、売上高は510億円（前期比4.3％減）となった。これらの状況により、売上高は1兆6,016億円（うち、海外売上高1兆2,360億円、海外売上高比率77.2％）、営業利益は5,043億円、経常利益は6,010億円、親会社株主に帰属する当期純利益は4,327億円となった。

２財政状態

テーブル

自動的に生成された説明

図2　財政状態

**2021年から2022年**

総資産は、主に棚卸資産や投資有価証券が増加したことにより、前期に比べ2,154億円増加し、2兆6,623億円となった。負債は、主に未払法人税等が減少したが、支払手形及び買掛金などが増加したことにより、前期に 比べ207億円増加し、5,930億円となった。純資産は、前期に比べ1,946億円増加し、2兆693億円となった。

**2022年から2023年**

総資産は、主に現金及び預金や有価証券などが増加したことにより、前期に比べ1,918億円増加し、2兆8,542億円となった。負債は、主に前受金などが増加したものの、未払法人税等などが減少したことにより、前期に比べ52億円減少し、5,878億円となった。純資産は、前期に比べ1,971億円増加し、2兆2,664億円となった。

３キャッシュフローの状況

テーブル

自動的に生成された説明

図3　キャッシュフロー状況

**2021/3期**

当期における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前期末から3,106億円増加し、9,320億円となった。各キャッシュ・フローの増減状況とその要因は次のとおりである。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動による資金は、税金等調整前当期純利益6,813億円に対して、法人税等の支払いなどの減少要因があったが、仕入債務の増加などの増加要因により、6,121億円の増加となった。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動による資金は、定期預金の払戻や有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が、定期預金の預入や有価証券及び投資有価証券の取得による支出を下回ったことなどにより、1,365億円の減少

となった。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動による資金は、主に配当金の支払いによる支出により1,949億円の減少となった。

**2022/3期**

当期における資金は、前期末から906億円増加し、1兆227億円となりました。各キャッシュ・フローの増減状況とその要因は次のとおりである。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動による資金は、税金等調整前当期純利益6,743億円に対して、主に法人税等の支払いや棚卸資産の増加などの減少要因があったが、仕入債務の増加などの増加要因により、2,896億円の増加となった。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動による資金は、定期預金の払戻や有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が、定期預金の 預入や有価証券及び投資有価証券の取得による支出を上回ったことなどにより、936億円の増加となった。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動による資金は、主に配当金の支払いによる支出により3,370億円の減少となった。

**2023/3期**

当期における資金は、前期末から1,718億円増加し、1兆1,945億円となった。各キャッシュ・フローの増減状況とその要因は次のとおりである。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動による資金は、税金等調整前当期純利益6,007億円に対して、主に法人税等の支払いや円安による為替の影響、棚卸資産の増加などの減少要因があったが、売上債権の減少などの増加要因により、3,228億円の増加となった。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動による資金は、定期預金の払戻や有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が、定期預金の預入や有価証券及び投資有価証券の取得による支出を上回ったことなどにより、1,115億円の増加となった。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動による資金は、主に配当金の支払いや自己株式の取得による支出により2,909億円の減少となった。

４財務比率

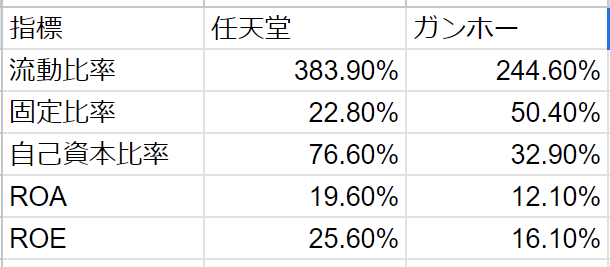


図4　2023年2社の財務比率の比較

流動比率

任天堂の流動比率は383.9%と、十分な安全性を備えている。これは、任天堂の現金や売掛金などの短期資産が、短期負債を十分に上回っているためである。一方、ガンホーの流動比率は244.6%と、任天堂に比べるとやや低い水準にあります。これは、ガンホーの短期資産が、任天堂に比べると少ないことが要因としてあげられる。

固定比率

任天堂の固定比率は22.8%と、借入に依存していないとわかる。これは、任天堂の固定資産が、自己資本の半分程度のためである。一方、ガンホーの固定比率は50.4%と、任天堂に比べると借入に依存していると言える。

自己資本比率

任天堂の自己資本比率は76.6%と、非常に高い水準にある。これは、任天堂の財務基盤がとても固いことを示している。一方、ガンホーの自己資本比率は32.9%と、任天堂に比べると低い水準にある。これは、ガンホーが外部からの借入に依存しているためである。

ROA

任天堂のROAは19.6%と、高い水準にある。これは、任天堂が資産を効率的に活用して、高い収益を上げていることを示している。一方、ガンホーのROAは12.1%と、任天堂に比べると低い水準にある。

ROE

任天堂のROEは25.6%と、非常に高い水準にある。これは、任天堂が自己資本を効率的に活用して、高い収益を上げていることを示している。一方、ガンホーのROEは16.1%と、任天堂に比べると低い水準にある。